

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 Aユニット・アカシヤ)

事業所番号	02010101843		
法人名	有限会社てるてるぼうず		
事業所名	グループホームてるてるぼうず		
所在地	青森県青森市高田字川瀬334-5		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果市町村受理日	平成24年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、入居者とスタッフが笑いあう時間が、自然に多くある。 ・スタッフがゆとりを持って入居者のケアにあたるように心がけている。 ・その日の入居者の状態により、柔軟な対応をしている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年12月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「地域と積極的に関わりを持ち、家庭的な雰囲気の中で、自分らしく健康で明るく楽しい日常生活を送れるよう、お手伝いいたします」というホーム独自の理念を掲げ、職員は様々なサービス提供場面で理念を反映させて取り組んでいる。</p> <p>また、ホームは地域に密着した運営をしており、地元自治会や婦人会、近隣小学校や保育園といった地域の方々と行き来をし、交流を図っている。こうした取り組みの成果として、納涼祭の際には、100名を超える地元住民の来場があった。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>スタッフ一人ひとりが理念を理解しており、毎日のサービスにて実践している。毎週、月曜日の朝礼時に理念を唱和している。</p>	<p>職員の意見も取り入れて作成した「地域と積極的に関わりを持ち、家庭的な雰囲気の中で、自分らしく健康で明るく楽しい日常生活を送れるよう、お手伝いいたします」という理念を掲げ、業務の随所に反映させている。また、玄関やホール等に理念を掲示する等して周知・共有化に取り組み、利用者が地域社会の一員として生活できるように支援に努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に積極的に参加するよう努めている。</p>	<p>地元町会に加入しており、近隣児童館や学校とも行事を通じて行き来している。また、職員が納涼祭の案内を近隣住民に配布して回ることで、多数の住民が参加する等、地域との交流を積極的に図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地元の方(小学生、美容院等)の来所の際等に、グループホーム事業の内容を聞かれた時はわかりやすく説明している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行事の報告の他、前回の会議で意見として出されたことへの取組みについて説明している。</p>	<p>会議の開催日を奇数月第4月曜日と固定することで、参加促進に努めている。また、運営推進会議のメンバー(自治会長、民生委員、児童館長、校長等)に避難訓練に参加してもらう等により、ホームの取組みを理解してもらい、会議等で出された意見を運営に反映させている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村からの連絡には素早く対応している。また、こちらからの情報等を素早く伝えるようにしている。</p>	<p>運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター職員や関係行政職員が含まれており、生活課題や制度改正等についても適宜相談できる関係を継続している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束による悪影響について、研修を通じて理解し、ケアに努めている。また、日中、玄関は基本的に施錠をしていない。やむを得ず拘束する場合は、家族から同意書を得て、早期解除に向けて努力している。</p>	<p>年間の研修計画のメニューとしても身体拘束について取り上げており、職員全体で身体拘束の弊害等について学習する機会を設けている。また、「緊急時、やむを得ない身体拘束に関する説明と同意書」にて、拘束の理由や方法、実施時間帯等を説明し、同意を得る体制も構築している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修等の学ぶ機会を設けている。また、虐待防止に向けて、スタッフがストレスを溜めないように心がけている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修を通じて学ぶ機会を設けている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明をし、その後も不明な点があれば、いつでも問い合わせに応じる体制を整えている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見書(投書箱)を玄関に設置している。面会や運営推進会議の際に意見等があった時は、内容を運営に反映するようにしている。</p>	<p>利用者や訪問者に対しては、職員が窓口となると共に、玄関に設置した意見箱を活用し、意見や苦情等の把握に取り組んでいる。また、家族に対しては、利用者の暮らしぶり等を伝える手紙の家族意見記載欄を活用し、意見等の収集に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの他、業務中等でも、スタッフからの意見や提案等を聞く機会を設けている。	職員間の意見交換は随時行っており、ユニットカンファレンスや全体ミーティングの場も活用し、協議している。また、勤務体制や休憩に関する事項も職員で協議し、出された意見を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の面談の際、意見を聞くようにしている。また、月1回のミーティング時も同様に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したスタッフにより、資料の配布や内部研修を行い、情報を共有するようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームとの相互評価事業に参加したり、交流会、忘年会にも参加し、交流の場を設けている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っていることを聞き出し、解消できるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話には耳を傾けており、不安等を解消できるように心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の支援を見極め、スタッフから進んで声がけをするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からケアをするにあたり、本人から意向を確認している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、お便り等で家族からの意向を聞くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が持続できるように、電話や手紙等の制限を設けることなく支援している。	入所時アセスメントや家族の意見、利用者との会話の中から、これまでの関わりを把握し、関係性の継続を支援している。また、把握した馴染みの場所等をドライブコースに取り入れる等の取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が声をかけ合い、孤立する方がいないように支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や悩み事があれば、いつでも対応するように努めている。実際、退所して2年経っても訪問してくれる家族もいる。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴を聞いて、本人に合ったものを支援できるように心がけている。	職員は、傾聴と受容を常日頃から心がけて利用者と接しており、必要に応じて「気付き書留ノート」も活用し、思いの把握と共有に努めている。また、面会時やお便り等を通じ、家族からの情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を収集することに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり過ごし方が違うので、その人に合った一日を送っていただけるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフを中心に、関係者が協力し合い、その人に合った計画を作成し、モニタリングを行っている。	利用者・家族の意向を踏まえ、担当職員と計画作成者が原案を作成し、職員にも回覧して必要な修正を行っている。また、計画期間内でも利用者の状態にも併せて適宜見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことでも気付いた点はケース記録に残している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小学校、児童館等の地域の行事に積極的に参加している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望を大切にしている。救急搬送を考慮し、協力医療機関への変更も薦めている。</p>	<p>入所時にこれまでの受診歴を把握し、かかりつけ医への継続受診、または協力病院への受診を、利用者・家族の判断に合わせて対応している。また、往診と訪問看護を交互に行うことで、医療機関との連携も密に図られている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護専用の申し送りノートを作成し、適切に伝達し、支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはホームでの暮らし方を説明している。また、早期に退院できるように、医療機関や家族とも話し合いを行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>病院や他の施設に移る際には家族と話し合いをしている。また、ホームで出来ることも説明している。</p>	<p>重度化や終末期への対応について、ホームの方針を明確にしている。ホームで対応できる範囲等について医療機関と連携し、職員間での話し合いの他、利用者や家族とも話し合い、意思統一を図っている。また、医療機関とは24時間体制で相談できる関係を構築している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防機関主催の応急手当講習に参加しており、急変時の対応に備えている。また、内部研修でも毎年行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や、緊急避難場所の確認をしている。	消防署の指導を受けながら、年2回の訓練を夜間想定で実施している。避難訓練には運営推進会議のメンバーにも参加を呼びかけ、協力を得ている。また、災害備蓄品も常時備えている他、避難経路の確保をしており、防災機器の点検を業者や防災担当職員が定期的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重するようなコミュニケーションを図っている。	家庭的な雰囲気を保ちながらも、個人を尊重した対応を心がけている。研修計画にも接遇に関する研修を計画・実施しており、ホーム全体として利用者に対する対応の共有化を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から希望を聞き出したり、自己決定が出来る場面を作るように心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを大まかに決めているが、その都度、臨機応変に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には選択肢を設けている。不定期ではあるが、訪問美容院も利用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、入居者とスタッフが一緒に食事をしている。また、入居者は下膳や食器拭きの手伝いもしている。	栄養士の資格を持つ職員がカロリー計算をし、利用者の嗜好も踏まえて献立を作成している。また、利用者のできる範囲で、食事の下ごしらえや茶碗拭き等のお手伝いもしていただき、職員と共に、和やかな雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分補給時以外でも、摂取状況が確認されていない日には、時間をずらして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアを行っている。介助を要する方には介助にて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の訴え時には、トイレ誘導をしている。おむつ着用をしている方に関しても、排便の訴え時にはトイレに誘導している。	個々の排泄パターンを記録し、トイレ誘導や介助を行っている。また、介護計画に利用者の状況に合わせて排泄の改善を計画する等、自立に向けた支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように栄養士の指導のもと、バランスの良い食事を提供している。また、こまめな水分補給も促している他、乳酸菌飲料を毎日飲んでいる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前にコミュニケーションをとり、気持ちよく入浴してもらえるように心がけている。また、安全を第一に考え、入浴予定日に気乗りしない場合には、日にちを変更している。	利用者の入浴習慣を事前に把握し、個々に合わせた対応を行っている。入浴拒否の利用者に対しては、日を変えたり、職員のアプローチを変える等、本人が納得して入浴できるよう支援している。	

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活が送れるよう心がけている。場合によっては午後に昼寝等の休息をしてもらう等、柔軟な対応を心がけている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ケース記録に薬剤情報カードを保管し、いつでも確認できるようにしている。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は洗濯たたみや食器拭き等のお手伝いを、自ら進んで行っている。			
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は入居者の希望に沿えるように努めている。また、必要に応じて家族にも協力してもらっている。	車イス対応車両を活用し、季節行事や常時の外出支援を、利用者の体調や意向に合わせて行っている。また、ドライブ時は利用者の馴染みの場所に立ち寄り、家族にも協力を依頼し、外出支援を行っている。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの了承を得て、来所する業者からの買い物や外出しての買い物等を自由に出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合にはスムーズに対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾をしている。エアコン、加湿器、暖房を利用し、心地よく過ごせる環境を提供している。	室温と湿度を調節した採光性の良い空間で利用者は過ごしており、利用者が部屋に閉じこもることなく、団欒している姿からも快適さが伺える。また、職員と利用者が共同制作した展示物が飾られ、季節を感じられる空間作りとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファーに集まって過ごしたり、食卓を囲んで会話をする等、様々な場所でコミュニケーションがとれるように支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に本人が使い慣れた物を、自由に使用してもらうようにしている。	利用者個々が馴染みの品物を持ち込み、居室作りを行っている。認知症の状況に合わせ、持ち込む量は家族と調整している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えばトイレの場所に「トイレ」と貼り紙をしたり、希望した場所に手すりを設置している。			